

わが街 Watching



▲よく狙って、それっ！白球に近づけて高得点を目指します

失敗しても大丈夫。“ドンマイ”の気持ちが大切

ボッチャ体験・人権教室

11月～12月の期間で、障害者スポーツ体験と人権教室が市内の小学校（伊田・鎮西・大浦・後藤寺）で開かれました。

子どもたちは、目標の白球に赤と青の球を投げ、目標への距離を競う「ボッチャ」（東京2020パラリンピック競技大会正式種目）に挑戦。車いすに乗りながら狙いを定め、渾身の一球を投げました。子どもたちは、仲間と作戦を練りながら競うことで、協力することや相手を尊重することなどスポーツや人権尊重において大切な心構えを学びました。

矢野優輝さん（鎮西小学校3年生）は「パラリンピック競技への興味が湧きました。友達と相談して投げ、思ったようにボールが止まると嬉しかった」と話しました。

市民の安全安心を守るため、いざ出発！

青色パトロール車贈呈式

12月16日、市役所玄関で青色回転灯のついた防犯パトロール車（青色パトロール車）の贈呈式が行われました。

この車両は、全国防犯協会連合会を経由して日本宝くじ協会から福岡県防犯協会連合会が譲り受けた1台。田川防犯協会連合会への青色パトロール車配備は初めてのことで、今後は防犯啓発活動に使用するほか、地域ボランティア団体へ貸し出すなどして安全安心なまちづくりを支えます。

この日は、ふたばまみと市長や森山仁田川警察署長のほか、地域で自主防犯活動を行っている田川防犯指導員連絡協議会のみなさんなど17人が出席。歳末パトロールに向け、出発式も行われました。



▲青色パトロール車を囲む指導員のみなさん

響け歌声、あなたのもとへ

第九を歌うバイinたがわコンサート

12月22日、田川文化センターで「第九を歌うバイinたがわ」の第14回コンサートが開催されました。

この日は「たがわで第九を歌うバイ合唱団」の団員を始め、地元保育園の園児など約90人が歓喜の歌などを熱唱しました。また、田川の風景や祭りの熱気などを歌詞に盛り込み歌い上げた交響詩「TAGAWA」を初披露。迫力の歌声で、会場を訪れた約600人を魅了しました。26日には合唱団の松岡久代代表が市役所を訪問。東京2020パラリンピックの事前キャンプに役立ててほしいと、売上金の一部を寄付しました。松岡さんは「選手との交流が、子どもたちの頑張る意欲になってほしい」と語りました。



▲生演奏とともに美しい歌声がホールに響き渡りました

台湾の歴史と魅力子どもたちへ

台湾のゲストティーチャーが出前授業

11月29日、台湾の博物館関係者が猪位金学園を訪れ、5・6年生59人を前に出前授業を行いました。

この日の講師は、の龔俊逸新平溪煤礦博物園區総経理、王新衡台湾雲林科技大学助理教授、楊佩瑜台湾科学博物館学芸員の3人。龔さんと王さんは、ともに「たがわ魅力向上大使」でもあります。この出前授業は、市石炭・歴史博物館と新平溪煤礦博物園區の友好館協定に基づく学術交流のひとつ。海外の炭坑や歴史を学ぶことで、将来に田川地域の歴史・文化の担い手となる子どもたちの視野を広げることを目的としています。子どもたちは、台湾の歴史や文化、人気の遊びなど多彩な話を聞き、英語での質問にも挑戦しました。



▲台湾の歴史や著名な人物などを解説する王助理教授

勝負は一瞬。狙った札は逃さない！

田川市子どもカルタ大会

12月1日、市総合体育館で「田川市子どもカルタ大会」が行われ、市内の小中学生約250人が参加しました。

この大会は、田川市子どもカルタ大会実行委員会と市教育委員会が主催しており、約20年以上続く歴史ある大会です。今大会も、各地区で練習を重ねて技術を磨いてきた子どもたちが集い、42チームが出場。優勝した「RUSH」(田川校区)と準優勝の「アルファ白鳥A」(鎮西校区)を含む上位10チームが筑豊ブロックカルタ大会(1月26日・飯塚市)に出場。田川市郡や嘉麻市、飯塚市から出場した21チームが競った結果アルファ白鳥Aが見事優勝し、本市から出場した他チームも上位を占めるなど、好成績を収めました。



▲読み上げの第一声と同時に素早く手が伸び、札を押えます

1964東京五輪～そのとき、田川は～

オリンピック × 田川 1964→2020

市石炭・歴史博物館では、1964年の東京オリンピック・パラリンピックと田川について、山本作兵衛コレクションとともに振り返る企画展を4月下旬から開催します。今回は当時をふりかえるコラムの最終回です。

東京オリンピックの開催まで残り約5か月になりました。コラムの最後を締めくくるのは、昨年大河ドラマ「いだてん」の主人公・金栗四三です。金栗は、日本がオリンピックに初参加した1912年のストックホルム(スウェーデン)大会に、短距離の三島弥彦とともに出場したマラソン選手。



オリンピックには3回出場し、生涯に走った距離は約25万km、なんと地球6周と4分の1になるそうです。また、箱根駅伝の創始者である金栗は「日本マラソンの父」と呼ばれており、日本マラソン界の発展に大きく寄与。女子体育の普及にも尽力した功労者です。企画展には、金栗のユニフォームや足袋をはじめ、メダルや関連資料も展示します。「いだてん・金栗四三」の軌跡をたどる貴重な機会を、お見逃しなく。

4月下旬からの企画展にむけ、東京オリンピック・パラリンピックに関連する資料や写真などを募集中。詳しくは問い合わせください。



問い合わせ 田川市石炭・歴史博物館 ☎44-5745